



みなみの風

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成

重点目標 「生き生きわくわく」～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをとおして～

【発行日】

令和7年12月24日

【発行者】学校長

師走も残すところわずかとなり、寒さも一層増してきた感じがする今日この頃です。

さて、道徳教育の12月の共通テーマは「礼儀」でした。とても温かい言葉を使える子も多く、すてきさんが多くいるのですが、様々な要因により、相手に対して失礼な言葉掛けをする場面がたまに見られます。また、礼儀としての「挨拶」については、あと少し…という状況が続いているところです。

年末年始を迎え、子どもたちも久々にお会いする方がいると思いますが、ぜひ気持ちよい挨拶ができるようお伝えいただければ幸いです。

本日は、2学期の終業式を執り行いました。この2学期も、子どもたちは様々なことに挑戦し、「生き生きわくわく」した様子がたくさん見られたことは教師冥利につきます。とくに、笑顔がたくさん見られる子どもたちとともに過ごした日々は、とても幸せでした。そこには、保護者の方々の温かいご支援があったからこそだと実感しています。明日から冬季休業に入りますが、ぜひ有意義なひと時をお過ごしください。よい年末年始をお迎えくださいませ。本当にありがとうございました。

国際交流事業を行いました

東海大学の留学生を迎えての交流事業を、
今年度も5年生3学級を中心に12月1日に
実施することができました。

この取組は、今後グローバル化が進む将来に向け、ますます大切な学びといえます。5年生の子どもたちも、積極的にコミュニケーションを取る子が多く、頼もしく感じました。交流の後、経験したことの価値付けを子どもたちは自ら文章で書き表し、それを先方に送付し、留学生の方々も、後日素敵な文章で、感想を送ってくださいました。



おみせやさんでお買い物！！

みなみ学級の子どもたちが、これまでの学びを生かし、12月16～17日の中休みに「おみせやさん」を開きました。

これまでに育ててきた大根等の野菜や丁寧に作成してきた小物等を教職員対象に販売するという活動です。私も大根とサツマイモ、思いの込められたアイロンビーズで作られたマグネット、そしてどんぐりで作られたプチオブジェを購入しました。

この2日間の多目的ホールは、多くの職員が来店し、子どもたちもとてもうれしそうでした。



「子育てアラカルト⑨～心に扉があるとすると(後編)～」

令和7年もうすぐ終わりを迎える時期になり、4月時の全児童の個人写真を見直しました。8か月という時間により、一人一人の顔つきが凜々しくなってきたことがよくわかりました。とくに、5・6年生の変化は著しいものがあります。徐々に大人への階段を登っているのでしょうか。

これまでに期間、もちろん子どもですからすべてが右肩上がりに順調に成長してきたわけではありません。しかしながら、本校の子どもたちは、教職員に指導されて行動するよりも、自らまたは仲間と関わる中で、自分たちで判断し行動することがこれまで以上に増えてきたことがとても立派だったと思います。そして、社会で活躍するには、その力はますます必要になってくると言われています。

さて、ここからは『ケーキの切れない非行少年たち 宮口幸治 著(新潮新書)』からの引用です。『子どもの心に扉があるとすれば、その取手は内側にしかついていない』。まさにその通りだと思います。子どもの心の扉を開くには、子ども自身がハッとする気付きの体験が最も大切であり、我々大人の役割は、説教や叱責などによって無理やり扉を開けさせることではなく、子ども自身にできるだけ多くの気付きの場を提供することなのではないでしょうか。

子どもたちは、そもそも学びの主体者で、興味・関心があれば、知識や技能を次々と身に付けていきます。大人がそのような環境づくりをするとともに、「聴く」と「待つ」の心の余裕がほしいところです。

「人権朝会」で学んだこと（12月9日）

昭和23(1948)年12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。

世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、人権保障の目標や基準を初めて国際的にうたった画期的なものです。採択日である12月10日は、「人権デー(Human Rights Day)」と定められています。

法務省の人権擁護機関では、人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定め、昭和24(1949)年から毎年、各関係機関及び団体とも協力して、全国的に人権啓発活動を特に強化して行います。

いじめや虐待、性被害等のこどもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障害のある人や外国人、アイヌの人々、性的マイノリティ等に対する不当な差別や偏見、部落差別(同和問題)、ハンセン病問題といった多様な人権問題が依然として存在しています。

これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。

法務省ホームページより引用

昨年も上記については、学校だよりで提示させていただきました。「人権」とは、人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利のことです。「生きていて」「自由でいて」「幸福でいて」という、すべての人に共通する3つの願いを支えるものです。それを実現するための人権教育とは、自他の人権を正しく理解し、相互に尊重し合うという人権尊重の精神の涵養を目的とした教育活動、わかりやすく言い換えると「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める」という気持ちを、自然にゆっくりと子どもたちの心の中に育てていくということになります。

このことを受け、本校の人権教育担当教諭が、人権朝会で読み聞かせ行い、その後各学級において振り返りをしました。子どもたちは、自分のよさや生きていることの意味を、改めて考える機会となり、自尊感情を高めることにつなげてくれたら…と思います。今回の朝会においても、「こうしましょう」という指導ではなく、「考えてみましょう」という終わり方になっています。

仲間とともに校外学習に行ってきました【4・6年生】

前号に続き、今回は4、6年生の校外学習について、紹介します。

4年生は、県央地区方面に行きました。とくに防災センターでは、体験型で「震度7」の揺れや「秒速30メートル」の風の怖さを感じました。他にも、非常時・発災時にどのように対応すべきかを学ぶことができました。

6年生は、やはり国会議事堂の衆議院本会議場に入り、説明を聞くことが貴重な経験となりました。地元選出の議員さんとのQ&Aでは、臆することなく興味あることを質問することができました。

いずれの学年も印象に残っているのは、「ありがとうございました」の言葉が当たり前に言えるその姿です。校外学習では、ふだんでは見られない子どもたちの姿を知ることができるので、教職員にとって多くの学びがあります。



4年生 校外学習
令和7年12月10日(水)
神奈川県総合防災センター
伊勢原市立子ども科学館



6年生 校外学習
令和7年12月12日(金)
国会議事堂
科学技術館

給食、おいしいね

12月19日の給食は、クリスマス献立でした。各学級の様子を見ると、どの子も笑顔でうれしそうでした。「食べることは生きること」毎日の給食を楽しみにしている子ってすてきですね。給食に携わる全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



個別面談へのご協力、ありがとうございました

12月15日から一週間にわたり実施された個別面談ですが、2学期の学びと生活の様子を中心に、成長した点や今後に期待したい点などを適切にお伝えできるようにしてきましたがいかがだったでしょうか。現在の各担任は、当然ですが経験年数に違いがあり、思いはあるものの、的確にお伝えすることが難しい場合があったかと思います。それでも、30人の学級であれば、担任からすると「30分の1」ですが、保護者の方からすればお子さんは「1分の1」に他なりません。その思いに寄り添い、意味のある面談を今後も心掛けたいと思います。お時間を持ってください、ありがとうございました。